第６章　南区社協　第３次地域福祉活動計画の特徴と課題

日本福祉大学　健康科学部　リハビリテーション学科　准教授
南区社会福祉協議会第３次地域福祉活動計画作業部会長
丹　羽　啓　子

地域福祉活動計画は、地域住民の皆さんや地域で活動する様々な団体・施設・機関が主体となって、地域で今どのような問題が起こっているのか、その問題を解決するためにはどのような方法があるのか、そして今後どのような地域をつくっていくのか、ということを考えていく計画です。以下では、南区での地域福祉活動計画づくりに参加した1年間を振り返り、計画づくりを通じてみえてきたこと・考えたことを3つのポイントにまとめてみたいと思います。

１．計画の策定方法にみられる特徴

（１）多彩なメンバーによる計画づくり

本書の末尾に掲載されていますが、南区の第３次地域福祉活動計画（以下、第３次計画とします）は総勢34名の作業部会委員を中心に計画づくりを進めてきました。第２次地域福祉活動計画（以下、第２次計画とします）の策定時から関わっていただいているメンバー以外にも、様々な所属・立場の方々に作業部会委員として集まっていただいたわけですが、こうした多彩なメンバーの存在が今回の第３次計画の内容に反映されていると思います。

第２次計画の策定から関わっていただいているメンバーの方々からは、計画策定の経験をふまえながら策定方法や計画内容の継承を提起していただきました。また、新規メンバーの方々からは、新たな視点からみた南区の現状に関する意見や、問題解決に向けたアイデアを提案していただきました。

このように、今回の第３次計画では、新旧メンバーそれぞれが持っている利点を発揮しながら、継続性と新規性という両面をもった計画づくりを進めることができたと思います。

（２）ワーキンググループでの調査活動を基盤とした計画づくり

前述の「継続性」とも関連しますが、第３次計画では前回同様、少人数のワーキンググループごとの活動を基盤に計画づくりを進めてきました。第２次計画以前から参画されている作業部会委員の方にグループリーダーとして関わっていただくことで、スムーズにグループでの活動に取り組むことができたように思います。また、これまでの計画の中であげられてきた実施項目との関連も意識しながら、第３次計画での実

施項目の検討を行ってきました。

一方、「新規性」という点については、第3次計画から策定に参画されたメンバーの方々が、グループごとの聞き取り調査やアンケート調査に加わることを通じて、南区内で活動する諸団体の現状について知ることができたという声もありましたし、そうした調査活動での体験をふまえて新たな地域の課題や目標について提起していただきました。

冒頭でも述べたように、地域福祉活動計画は、今、地域でどのようなことが起こっているのかについて、感覚としてではなく現実として捉えていくことが必要不可欠です。そうした点からも、グループ単位での調査活動を通じて作業部会のメンバーの方々に地域住民の生の声を知ってもらうことができたことは、計画づくりのプロセスの中でも重要な意味をもつものと思います。

2．計画の体系にみられる特徴

（1）地域福祉の推進に向けた方針：3つの基本計画

第3次計画は、福祉のまちづくりを推進していくための3つの基本計画（「一人ひとりが支え合う仕組みづくり」、「福祉の心をはぐくむ人づくり・まちづくり」、「学区を基盤としたネットワークづくり」）から構成されています（第4章参照）。これらの3つの柱については、ワーキンググループでの調査活動や議論を通じて整理されたものですが、ここではそれぞれの基本計画がもつ意味について述べたいと思います。

第一に、「一人ひとりが支え合う仕組みづくり」についてですが、これは第4章の文中にもあるように、“誰もが安心した生活を送るためには、一人ひとりが地域とつながり、お互いに支え合える関係性をつくることが大切”であるという、ワーキンググループでの意見から提起されたものです。一人ひとりが地域とつながることを実感でき、また互いに支え合うことのできる関係をつくっていくためには、隣近所や向こう三軒両隣といったような身近な空間での日常的な取り組みが重要になります。地域福祉を推進していくための基盤は、自分自身にとっての身近な場での人間関係や出来事への気配りを通じて形成されていくものだと考えます。

第二に、「福祉の心をはぐくむ人づくり・まちづくり」についてですが、第4章では“福祉の土壌”という言葉を用いてこの基本計画を説明しています。地域福祉をつくっていくのは、地域で生活する住民自身です。そのため、その地域で暮らす人々が福祉についてどのような意識をもっているのか、関心をもっているのかによって、地域福祉の活動内容やその成果は左右されます。また、人々の意識というものは人との触れ合い・つながりを通じて醸成・変化していくものです。そういった点からも、

様々な人々と交流できるまちづくりを進めていくことは、地域福祉を推進していく上で重要な意味をもっています。

第三に、「学区を基盤としたネットワークづくり」についてですが、第４章では“地域団体や福祉施設、企業等、様々な社会資源と連携し、より多くの住民が関わりあえる機会”をつくることを提起しています。ここで重要な点は、限られた人々や福祉関施設の力だけでは地域福祉の推進は難しい、ということです。地域で起きている問題を解決し、一人ひとりの住民の生活を守るためには、住民生活に関わる様々な団体・企業・専門機関が繋がることで、地域のセーフティネット（安全網）を強化していくことが求められます。こうしたセーフティネットを強化していくためにも、既存の団体・組織の活性化や、団体間・組織間での情報の共有などが重要になると考えます。

（２）地域福祉の推進に向けた具体的な取り組み：実施計画と実施項目

本書の第5章に掲載されている「計画の体系図」では、前述した3つの基本計画に対して8つの実施計画、13の実施項目が提起されています。これらの実施項目のうち、ここでは、「声かけ隊活動」（№１）、「ここバリ（心のバリアフリー）すぽっと」（№７）、「地域福祉推進協議会」（№10）に関する私見を述べたいと思います。

「声かけ隊活動」については、本書の17ページ で説明されています。他の地域でも同様の活動が取り組まれてきており、住民同士のつながりを作っていく際の基本となる活動として成功している事例もいくつかあります。そうした他地域での取り組みを参考にしつつ、南区の地域特性（例：転入出が多い地域がある、高齢者の割合が市内で最も高い等）をふまえて具体的な進め方を検討していくことが必要になると考えます。学区ごとにも地域住民の特性や地域の環境は異なると思いますので、地域調査を通じてそれぞれの地域特性を分析していくことも必要になるでしょう。

次に、「ここバリすぽっと」についてですが、これは第２次計画から継続して取り組んでいる実施項目の一つです。南区には現在100か所以上の「ここバリすぽっと」がありますが、今後はその数を増やしていくことに加えて、より多くの方々に「ここバリすぽっと」の存在やその意義を知ってもらうことも重要になると考えます。「心のバリアフリー」は第２次計画で取り上げられた新たな考え方であり、この「心のバリアフリー」の実現に向けた取り組みである「ここバリすぽっと」の活動を住民の方々に理解してもらうことは、本計画の目指すところを知ってもらうことにもつながります。「ここバリすぽっと」の取り組みを通じて、少しでも多くの方々に地域福祉について関心をもってもらうこと、それが計画の推進に向けた新たな協力者を募っていくことにもなります。

また、「地域福祉推進協議会」については本書の26ページ でも説明されていますが、その活動の推進や活性化の必要性については第２次計画以前からとりあげられて

きました。「地域福祉推進協議会」が把握している地域の情報は、各学区の特性をふまえた地域福祉活動を展開していく上で重要な意味をもちます。巻末に資料として掲載されている「地域福祉推進協議会に対する聞き取り取材調査結果」の中でも、見守り活動の課題がいくつかあげられていましたが、これらの課題は前述した「声かけ隊活動」や他の団体・組織との連携によって克服していくことで可能になると思います。地域で活動する各団体・組織のもつ情報を学区内または区全体で共有し、互いの活動を補完していくことが必要です。

3．第3次活動計画の推進に向けた「人づくり」の課題

今回、第3次活動計画づくりに関わることを通じて、南区では地域福祉活動に関心をもつ住民の方々や、実際の活動に積極的に参加しようという意思を持つ人々が存在することを心強く感じることが何度かありました。巻末の資料に掲載されている「ここバリすぽっと」に対するアンケート調査結果では、「ここバリすぽっと」の広報に関する様々なアイデアが出されていますし、また“よりよい南区になっていくよう協力しますので、何でもいってください”、“できることがあればお声掛けください”といった意見もみられます。こうした人材の存在は、地域福祉を推進していくうえで南区がもつ『強さ』の一つとなるでしょう。

この『強さ』を底上げしていくためには、さらに多くの住民の方々の地域福祉に対する関心を高めていくことが必要だと考えます。ワーキンググループによる調査活動等からは、サロン活動などの地域活動に参加するきっかけをもたない人々の問題、何らかの問題を抱えた人々を学区内で把握することの難しさ、関連機関との連携不足などの意見もみられました。地域が抱えるこうした問題を解決していくためには、その地域で暮らす一人ひとりの住民のもつ力を引き出し、その力を活用していくことが求められるのだと思います。

南区の地域福祉活動計画の副題にある“みんなで咲かせよう”という言葉は、地域福祉の主旨を端的に表したものです。ある特定の人物（またはグループ）の活動だけで地域福祉を推進していくことは難しいことです。地域で生活する不特定多数の「みんな」を巻き込んでいくプロセスを通じて、地域福祉を推進していく力が生まれてくるのだと思います。この「みんな」をどこまで広げていけるか、南区における地域福祉の協力者・担い手をどこまで増やしていけるか、それが第3次計画の課題の一つだと考えます。今回の計画づくりに参画いただいたメンバーの方々を介して、より多くの住民の方々に南区で行われている多様な地域活動を知ってもらい、地域が抱える問題の解決に向けて関心をもってもらうことを期待します。